

平成15(2003)年度 社会福祉法人あかつき福祉会  
事業報告書

社会福祉法人あかつき福祉会

## 事業報告書 目次

( 1 ) 総括事項	1
( 2 ) 事業別報告	
理事会・評議員会開催状況	2
. 理事会開催状況	2
. 評議員会開催状況	4
箕面市立あかつき園運営事業	7
箕面市立ワークセンターささゆり運営事業	10
箕面市立知的障害者デイサービスセンター運営事業	13
地域生活支援事業	
. 障害者ショートステイ事業(児童、知的、身障)	15
. 知的障害者地域生活援助事業(グループホーム運営事業)	16
. 箕面市在宅障害者自活訓練事業	17
. 箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業	17
. 障害児(者)地域療育等支援事業(児童・知的)	18
. 障害者居宅介護等事業(知的・身障)	19
個別余暇支援事業「ざ・ほりでーず」実施状況	20
職員研修実施状況	21
視察・実習等受け入れ状況、講師派遣	22
福祉サービス向上委員会	24
社会福祉法人あかつき福祉会 役員名簿	25
社会福祉法人あかつき福祉会 評議員名簿	26
平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福祉会 組織図	27
平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福祉会 職員内訳	28

## (1) 総括事項

地域格差等多くの課題を内在しつつスタートした支援費制度、地方自治法の改正に伴う指定管理者制度の導入、箕面市立知的障害者デイサービスセンターからの事業撤退と新規知的障害者デイサービス事業「わんすてっぷ」の開設準備、授産施設におけるメイン作業活動である箕面市指定ごみ袋の大規模な制度改正……。当福祉会にとっての平成15年度は、大転換期を迎えた激動の1年であった。

### 支援費制度と指定管理者制度の導入

とりわけ、支援費制度導入による利用契約、代理受領に伴う膨大な申請事務等に職員が日々追われる中、前述の既存デイサービスセンターからの撤退と新規「わんすてっぷ」の開設準備に至る経過は特筆すべき事象であった。即ち、平成6年10月の事業開始当初から今日に至る10年間、当福祉会は、箕面市から箕面市立知的障害者デイサービスセンターの運営を委託され、多様な利用者の障害状況とニーズに対し、的確かつ迅速に対応してきた。しかしながら、平成15年11月に、箕面市からの「東部老人デイサービスセンター等の今後のあり方」なる通知により、当福祉会の運営が不可能であることが示された。これを契機に、これまで当福祉会が利用者・家族と築きあげてきた信頼関係を継続し、同施設でのサービス水準を維持したいとの現場職員の思いと誇りが核心となり、独自に知的障害者デイサービス事業を運営する企画が現場職員から提案され、平成16年4月の開所に向けて職員が一束し、その具現化を推進したことは、今後の福祉会の方向を決定付ける画期的な出来事であった。

なお、この指定管理者制度は、15年度以降、当福祉会が経営するあかつき園等の他の公設施設においても適用されることとなる。

### 独自シンポジウムの開催

また、定藤記念福祉研究会北野誠一会長の指導による「重度障害者市民の地域生活を考えるシンポジウム」の開催も、一つの節目としての出来事であった。当福祉会では、平成10年から西宮市社会福祉協議会「青葉園」と共同研究として「本人支援プログラム研究会」を立ち上げ、利用者のニーズに基づき、利用者を中心とした支援構築に向け研究を続けてきた。その取り組みと実践報告を行い、併せて支援費制度と今後の重度障害者市民の地域生活について、延べ115名の市民、利用者・家族、行政の参加者と共に考え、論議を交わし、今後の方向性を確認できたこのシンポジウムは、重度障害者市民の地域福祉推進に向け取り組んできた本研究会の成果、集大成といえよう。

### 経営改革プログラムの策定

一方、当福祉会は、障害福祉を取り巻く厳しい社会経済情勢及び地方自治法の改正等により、我々は今まさに時代を取り巻く大きなうねりのなかにあり、必然的に社会福祉法人として経営改革に取り組むことが求められている。このような状況のもとで、昨年度から検討を重ねてきた経営改革案については、理事・評議員及び箕面市との協議を重ねた結果、本年3月には「当福祉会経営改革プログラム ～進化すべきもの～」としてその方針を定めたところである。何よりこの経営改革プログラム策定に関しては、箕面市長及び市長公室の幹部職員に対し、プロパー管理職が自らの声で、直接説明する機会を2度までも与えられたことは、今後、法人の自主独立に向けた方向性を示唆する象徴的な事象であると考えられる。

今後とも当福祉会は、公益法人としての誇りを胸に、逆境を最大のチャンスとして捉え、激動の時代を乗り切り、そのサービス内容、クオリティから市民に選ばれる法人めざして役職員一同、一丸となって邁進する所存である。

遙か彼方のゴール、ノーマライゼーション社会の実現と人に優しい豊かな地域コミュニティの創出を夢見て……。

## (2) 事業別報告

### 理事会・評議員会開催状況

#### ・理事会開催状況(全4回開催)

##### 第1回理事会

\*開催日時：平成15年 5月28日(水) 午前10時~午後0時20分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第1号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について同意を求める件

第2号議案 社会福祉法人あかつき福祉会評議員選任について同意を求める件

第3号議案 平成14(2002)年度社会福祉法人あかつき福祉会決算認定の件

第4号議案 社会福祉法人あかつき福祉会定款変更について同意を求める件

第5号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則の一部改正の件

第6号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則の一部改正の件

第7号議案 社会福祉法人あかつき福祉会非常勤職員就業規則の一部改正の件

報告第1号 住居等の賃貸借契約締結時における当福祉会内部の連帯保証に係る内規制定の件

報告第2号 社会福祉法人あかつき福祉会経営改革プロジェクトの進捗状況の件

報告第3号 支援費制度への対応状況の件

報告第4号 授産施設利用者への工賃の支給の件

報告第5号 社会福祉法人あかつき福祉会福祉サービス向上委員会最終報告の件

(以上、全案件につき同日可決、承認)

##### 第2回理事会

\*開催日時：平成15年10月29日(水) 午前10時~同11時50分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第8号議案 社会福祉法人あかつき福祉会評議員選任について同意を求める件

第9号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則の一部改正の件

第10号議案 社会福祉法人あかつき福祉会支援職員就業規則制定の件

報告第6号 社会福祉法人あかつき福祉会経営改革プログラムの進捗状況の件

報告第7号 社会福祉法人あかつき福祉会職員による利用者への不適切な発言の件

報告第8号 社会福祉法人あかつき福祉会職員退職の件  
(以上、全案件につき同日可決、承認)

### 第3回理事会

\*開催日時：平成15年12月24日(水) 午前10時~同11時35分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第11号議案 障害者デイサービス事業等実施の件  
(以上、全案件につき同日可決、承認)

### 第4回理事会

\*開催日時：平成16年 3月22日(月) 午前10時~午後0時55分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第12号議案 平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福祉会補正予算(第1号)の件

第13号議案 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福祉会事業計画及び予算の件

第14号議案 社会福祉法人あかつき福祉会定款変更について同意を求める件

第15号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について同意を求める件

第16号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則一部改正の件

第17号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則一部改正の件

第18号議案 社会福祉法人あかつき福祉会公印規則改正の件

第19号議案 社会福祉法人あかつき福祉会経営改革プログラムの件

第20号議案 施設長の選任の件

第21号議案 社会福祉法人あかつき福祉会理事長選任の件

第22号議案 社会福祉法人あかつき福祉会副理事長選任について同意を求める件

第23号議案 社会福祉法人あかつき福祉会常務理事選任について同意を求める件

- 第24号議案 社会福祉法人あかつき福祉会理事長の職務代理の件  
報告第9号 箕面市立障害者福祉センターささゆり園指定管理者応募  
の件  
報告第10号 社会福祉法人あかつき福祉会経理規程一部改正の件  
報告第11号 箕面市指定ごみ袋印刷原反等納入指名競争入札実施結果  
の件  
報告第12号 社会福祉法人あかつき福祉会箕面市立障害者福祉センタ  
ーささゆり園身体障害者デイサービス運営規程、他1件の  
制定、社会福祉法人あかつき福祉会箕面市立知的障害者デ  
イサービスセンター運営規程の廃止及び社会福祉法人あか  
つき福祉会箕面市立あかつき園運営規程、他7件の一部改  
正の件  
報告第13号 日本財団助成事業の件  
(以上、全案件につき同日可決、承認)

#### ・評議員会開催状況(全4回開催)

第1回評議員会
---------

- \*開催日時：平成15年 5月24日(金) 午前10時~同11時15分  
\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室  
\*案件：第1号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について承認を求め  
る件  
第2号議案 平成14(2002)年度社会福祉法人あかつき福祉会決算認  
定について同意を求める件  
第3号議案 社会福祉法人あかつき福祉会定款変更について同意を求め  
る件  
第4号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則の一部改正につ  
いて同意を求める件  
第5号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則の一部改正につ  
いて同意を求める件  
第6号議案 社会福祉法人あかつき福祉会非常勤職員就業規則の一部改  
正について同意を求める件  
報告第1号 社会福祉法人あかつき福祉会常務理事選任報告の件  
報告第2号 社会福祉法人あかつき福祉会施設長等選任報告の件  
報告第3号 住居等の賃貸借契約締結時における当福祉会内部の連帯保  
証に係る内規制定の件  
報告第4号 社会福祉法人あかつき福祉会経営改革プロジェクトの進捗

状況の件

報告第5号 支援費制度への対応状況の件

報告第6号 授産施設利用者への工賃の支給の件

報告第7号 社会福祉法人あかつき福社会福祉サービス向上委員会最終報告の件

(以上、全案件につき同日可決、承認)

第2回評議員会

\*開催日時：平成15年10月24日(金) 午前10時～同11時45分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第7号議案 社会福祉法人あかつき福社会職員就業規則の一部改正について同意を求める件

第8号議案 社会福祉法人あかつき福社会支援職員就業規則制定について同意を求める件

報告第8号 社会福祉法人あかつき福社会経営改革プログラムの進捗状況の件

報告第9号 社会福祉法人あかつき福社会職員による利用者への不適切な発言の件

報告第10号 社会福祉法人あかつき福社会職員退職の件

(以上、全案件につき同日可決、承認)

第3回評議員会

\*開催日時：平成15年12月19日(金) 午前10時～同11時20分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第9号議案 障害者デイサービス事業等の実施について同意を求める件

(以上、全案件につき同日可決、承認)

第4回評議員会

\*開催日時：平成16年3月19日(金) 午前10時～午後0時45分

\*開催場所：箕面市立ワークセンターささゆり 2階会議室

\*案件：第10号議案 平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福社会補正予算(第1号)について同意を求める件

第11号議案 平成16(2004)年度社会福祉法人あかつき福社会事業

計画及び予算について同意を求める件

第12号議案 社会福祉法人あかつき福祉会定款変更について同意を求める件

第13号議案 社会福祉法人あかつき福祉会役員選任について同意を求める件

第14号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員就業規則一部改正について同意を求める件

第15号議案 社会福祉法人あかつき福祉会職員給与規則一部改正について同意を求める件

第16号議案 社会福祉法人あかつき福祉会公印規則改正について同意を求める件

第17号議案 社会福祉法人あかつき福祉会経営改革プログラムについて同意を求める件

第18号議案 施設長の選任について同意を求める件

報告第11号 箕面市立障害者福祉センターささゆり園指定管理者応募の件

報告第12号 社会福祉法人あかつき福祉会経理規程一部改正の件

報告第13号 箕面市指定ごみ袋印刷原反等納入指名競争入札実施結果の件

報告第14号 社会福祉法人あかつき福祉会箕面市立障害者福祉センターささゆり園身体障害者デイサービス運営規程、他1件の制定、社会福祉法人あかつき福祉会箕面市立知的障害者デイサービスセンター運営規程の廃止及び社会福祉法人あかつき福祉会箕面市立あかつき園運営規程、他7件の一部改正の件

報告第15号 日本財団助成事業の件

(以上、全案件につき同日可決、承認)



## 箕面市立あかつき園運営事業

### ・概要報告

平成15年度は、本人支援プログラムに基づく支援実践を開始してから約7年が経過し、支援者の意識の中にも支援計画の策定 実施 検証のサイクルがほぼ定着し、さらなる「利用者主体」の支援サービスの提供をめざし、以下の事業を実施した。

#### ア．活動チームの再編と進路支援

前回のチーム編成から5年が経過し、この間の利用者の入退所や障害状況の変化に伴い、チーム編成を見直す必要性が生じた。そこで、昨年度より検討を重ね今年度より始まる支援費制度への移行を機に、一人ひとりの本人支援プログラムを円滑かつ効果的に実践するため、活動チームの再編を行った。その結果、各利用者の将来展望、進路希望先をイメージした活動を展開し、利用者4名がデイサービスへ移行された。

#### イ．地域社会との繋がりを大切にした授産活動

当園のメイン授産活動である製袋事業については、今年度より箕面市の制度改正とそれに伴う仕様変更があり、製造工程の変更・取扱い品種の増加に伴う配送業務の煩雑化等に対応する必要性が生じた。また、作業工程の変更に伴い、利用者用補助具を作成することにより、利用者にとっては、より円滑かつ積極的に作業に携われるようになった。

また、配送業務に関しても、繁忙期は外部委託を行って対応したが、通常配送時は必ず利用者が従事することとし、地域社会との繋がりを深める活動として取り組んだ。

#### ウ．地域に根ざした活動支援

利用者の生活を豊かにする日中活動については、施設内で完結することなく、近隣福祉施設との交流活動や、公民館等でのコミュニティ活動への参加を進めた。これらの活動は開始したばかりではあるが、地域住民に障害のある人を身近に感じていただけると共に、個々の利用者が社会参加を果たしていく機会として有効な活動であった。今後もこれらの活動をきっかけに、より一層地域に根ざした活動の展開を図っていきたい。

#### エ．外部講師等人材の活用

昨年度に引き続き、職員の知識・技術だけでは果たすことのできない分野については、専門講師（音楽・ダンス等）の導入を図った。しかし、利用者の支援を職員や専門講師だけで成し遂げることは困難であり、また、日常の活動においても多くの市民に当園を知っていただき、力を貸していただけるサポーター（ボランティア）を育成していくことが積年の課題であった。今年度は周辺地域への啓発ビラ配布を通じて、サポーターの募集を行ったところ、僅かではあるが応募者があり、定期的に作業活動の応援に入ってもらっている。次年度はホームページや機関紙を有効に活用し、継続的にサポーターの募集し、地域の「応援団」を増やしていきたい。

このように、当園が果たす役割・機能は、単に日中活動における支援サービスの提供といった狭い視点に留まらず、利用者が「このまちで自分らしく暮らす」ための総合的な地

域生活支援プログラムの構築と実践にある。また、それらの実践は、施設職員だけで完結しては意味がなく、真に地域に根ざした実践活動を行う中で、市民を巻き込み支援の輪を広げていくことが肝要であると考え。今後においては、今年度の実践を礎に、広く市民に認知され、応援していただける施設経営をめざしたい。

### ・主な年間行事

- 4月 = 新利用者歓迎会
- 5月 = ハイキング ( 2回実施、NPO山麓保全委員会との交流 )
- 6月 = 健康診断 ( 3回に分けて実施 )
  - ハイキング ( 1回実施、NPO山麓保全委員会との交流 )
- 8月 = 納涼祭
- 10月 = 園外活動 ( 花博記念公園鶴見緑地 = 第1グループ )
- 11月 = 絵画展覧会 ( 市民活動センター )
  - 園外活動 ( 宝塚ガーデンフィールズ = 第1グループ )
  - 園外活動 ( 味覚狩り = 第2グループ )
- 12月 = 忘年会 ( チーム別 )
  - 園外活動 ( そば打ち体験 = 第2グループ )
- 1月 = もちつき会
- 2月 = 健康診断 ( 3回に分けて実施 )

### ・月間行事

- ア．健康相談 ( 年12回 内2回は全職員対象の研修会を実施 )
- イ．プール活動 ( 年70回 )
- ウ．音楽療法 ( 年12回 )
- エ．音楽レクリエーション ( 年13回 )
- オ．ダンス活動 ( 年19回 )
- カ．体重測定 ( 年12回 )
- キ．TEACCH相談 ( 年11回 内2回は全職員対象の研修会を実施 )

### ・箕面市立あかつき園在籍者状況

ア．平成15年度

平成16年3月31日現在

項 目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(24人)	25.1歳	6.4年	94.8%
男性(26人)	32.2歳	12.4年	94.1%
全体(50人)	28.4歳	9.5年	94.5%

注) 端数処理は、小数点以下第二位を四捨五入

イ. 平成14年度

平成15年3月31日現在

項 目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(21人)	24.8歳	6.1年	94.0%
男性(24人)	32.9歳	12.7年	93.2%
全体(45人)	29.1歳	9.6年	93.6%

注) 端数処理は、小数点以下第二位を四捨五入

## ・ 障害状況

### ア. 療育手帳

A	47名
B1	3名

### イ. 身体障害者手帳

1級	2名
2級	2名
3級	2名
4級	1名
5級	1名
6級	1名

### ウ. 支援費区分

区分A	42名
区分B	8名

## 箕面市立ワークセンターささゆり運営事業

### ．概要報告

当センター開所10年目にあたる平成15年度は、奇しくも支援費制度のスタートの年あり、利用契約に基づき利用者に選ばれる施設を目指し、当福祉会の理念である「利用者主体の地域に根ざしたサービス提供事業体」として支援サービスの提供に努めた。

また、平成12年度より試行的実践と調査研究を継続してきた「重度身体障害者デイサービスセンター試行事業」は、事業化に向けた最終段階として、開設準備、支援体制整備に努め、3月下旬の箕面市議会の議決を経て、平成16年4月からは当福祉会が指定管理者として箕面市立障害者福祉センターの管理運営と併せ、身体障害者デイサービス事業として実施する予定である。

### ア．支援費制度への円滑な対応（「支援費対応電算システム」の導入）

支援費制度のスタートにより、新たな業務が発生することとなったが、専用サーバー設置による「支援費対応電算システム」の導入により、円滑な事務処理・確実な支援費や利用者負担金の受領等が可能となった。また、支援サービスにおいては、「本人主体」理念のもと、本人支援プログラムを個別支援計画と名称変更し、支援の充実を目指して実践・検証に努めた。

### イ．利用者を主体としたサービスの提供

利用者サービスの提供にあたっては、スケジュール化・進捗管理を徹底し、明確な見通しのもと、計画的・効率的なサービス提供に努めた。

また、活動の実施にあたっては、個々のニーズに寄り添うべく、個別・少人数グループでの活動の提供を目指し、柔軟かつ多様なサービス提供・環境の構築に努め、実施後についても、可能な限り顧客満足度の検証・フィードバックに努めた。

加えて、施設サービスだけでは利用者の生活をトータルで支えることは困難であるため、当福祉会の障害者居宅介護等事業等の地域生活支援事業や他の社会資源との連携のもと、斡旋、調整に努め、支援の輪の広がりが少しずつ実感出来るようになった。

### ウ．社会福祉法人としての公共性、公益性、補完性の原則に則った施設経営

今年度も公共性、公益性の観点から、支援現場であるサービス提供場面へ、277名のボランティアを積極的に受け入れた。

ボランティアと共に実施した活動のうち、音楽療法・創作活動については、高度な専門性を持つ講師と当施設スタッフと協働して、利用者の限りない可能性に働きかけ、その集大成としての発表イベントを開催し、利用者及び講師並びにスタッフが、共感・共有する時間が持てたことは大きな収穫であった。

また、健康維持増進活動においては、「健康日本21」に基づく市民向け企画である「みのおウォーキング」に参加し、一般市民との交流及び障害者市民に対する啓蒙・啓発活動の機会として今後の発展的展開への期待を持つことが出来た。

今後も開かれた施設を目指し、ノーマライゼーション社会の実現と豊かな地域コミュニティの創出に寄与していきたい。

### エ．利用者ニーズを中心とした支援サービスの提供（円滑な移行支援を含む）

身体障害者デイサービス事業の本格事業化をめざすと共に、次年度新卒者等の受け入れ

を念頭に、本人支援の理念のもと円滑な移行支援に努めた。当施設の通過機能については、一定のコンセンサスは得られているものの、利用者・家族にとっては、大きな不安材料であることは間違いない。今後、従来にも増して、多くの新卒者の受け入れを求められるが、多様な進路先の開拓・確保は、最大の継続課題である。そこで、通過機能を十分発揮していくためにも、利用者ニーズを最優先に、「協働の支援者」として行政・利用者・家族・福祉会が、共に対等の立場で課題解決に向け連携することが、今後求められるであろう。

#### オ．おわりに

支援費制度や指定管理者制度の導入に伴い、公施設設の経営を含め、ますます多様なサービス実施主体の参入が予測される。この状況下で当福祉会が、引き続き箕面市における障害福祉サービスの主たる担い手として、事業を确实・効果的かつ適切に実施していくためには、職員の意識改革と経営基盤の強化が必要となる。

そこで、当センターは、この困難期を乗り切るためには、市民が求めるニーズに的確に対応し、期待と信頼に応え、その存在意義を広く市民に示すことが肝要であり、箕面市における重い障害のある市民の「このまちで自分らしく暮らしたい」を支えうる法人へ変革をめざし、不断の努力をもって経営改革プログラムに基づく法人改革と職員の意識改革を断行し、組織力の向上と良質かつ適切なサービス提供をめざしていきたい。

#### ．主な年間行事

- 4月＝入所式
- 6月＝健康診断
- 7月＝緑地公園プール（2回）
- 8月＝緑地公園プール（2回）
- 9月＝所外活動（神戸フルーツフラワーパーク・キリンピアパーク・ハーベストの丘）
- 10月＝消防訓練・所外活動（マイカル茨木・北野工房・神戸フルーツフラワーパーク・ハーベストの丘）
- 11月＝所外活動（宝塚ガーデンフィールズ・天王寺動物園）
- 12月＝忘年会
- 1月＝成人祝い&もちつき会
- 3月＝健康診断・消防訓練・年度末発表会

#### ．月間事業

- ア．健康相談（年12回）
- イ．プール活動（年36回）
- ウ．ニコニコキャンパス（創作活動ーボランティア講師あり）（年43回）
- エ．プレ音楽療法（ボランティア講師あり）（年41回）
- オ．作業療法士による機能訓練（年24回）
- カ．体重測定（年12回）

・箕面市立ワークセンターささゆり在籍者状況

ア．平成15年度

平成16年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(13人)	30.6歳	4.5年	89.9%
男性(17人)	27.9歳	6.5年	88.9%
全体(30人)	29.1歳	5.6年	89.3%

注) 端数処理は、小数点以下第二位を四捨五入

イ．平成14年度

平成15年3月31日現在

項目	平均年齢	平均在籍年数	平均出席率
女性(14人)	28.8	3.9年	89.6%
男性(16人)	27.4	5.9年	92.0%
全体(30人)	28.7	5.0年	90.9%

注) 端数処理は、小数点以下第二位を四捨五入

・障害状況

身体障害者手帳

1級 21名

2級 7名

3級 2名

療育手帳

A 25名

B1 1名

B2 1名

支援費区分

区分A 29名

区分B 1名

・ささゆりホール利用状況

平成16年3月31日現在

項目		平成15年度	平成14年度	対前年度比率
一般利用	利用人数(名)	525	1,337	39.3%
	利用時間数(時間)	197:00	412:00	47.8%
関係者利用	利用人数(名)	1,746	2,175	80.3%
	利用時間数(時間)	1,275:00	594:30	214.5%
合計	利用人数(名)	2,271	3,512	64.7%
	利用時間数(時間)	1,472:00	1,006:30	146.2%

## 箕面市立知的障害者デイサービスセンター運営事業

### ・概要報告

当センターにとっての平成15年度は、支援費制度や地方自治法改正による指定管理者制度の導入といった大きな制度改正による転機の年であった。

その中で利用契約者数は18名、延べ利用人数は2307.5名となり、いずれも昨年度を上回る数字となった。これは、支援費制度導入による効率的経営をめざした積極的な利用促進を行った成果であったが、時代の流れは予想以上に早く、また更に大きなうねりとなって当福祉会に押し寄せ、結果として当センターからの事業撤退を余儀なくされるといった激動の1年であった。

### ア．指定管理者制度の導入（新たな知的デイサービス事業開設に向け）

今年度においては、支援費制度導入という大きな制度改正により、利用者へのサービス低下と不要な混乱を招かぬよう、精神的安定に配慮した支援活動に努めた。しかしながら、この状況下でさらに指定管理者制度が導入され、箕面市においても当センターが設置されている市立施設「光明の郷」自体の運営のあり方が見直された。結果として、同施設を運営する法人の要件が、1階部分にある老人デイサービス事業（介護保険制度）と一体的運営が可能な法人となったため、事実上、当福祉会は同施設内の知的デイサービス事業から撤退せざるを得なくなった。

このことは、当センターに従事するスタッフの間に大きな衝撃と動揺を生じさせた。なぜならば、当センターの利用者には、環境変化への対応が非常に困難な精神障害を併せ持つ方が数多く利用されており、急激な環境変化は、「命の問題」にもなりかねないからである。現場スタッフからは、利用者、家族への不安を最小限にとどめたいという思いから、福祉会による事業継続を望む声が大きく、また、利用者からの「みんなとこれからも一緒に活動したい」との強い願いを全職員が真摯に受け止め、検討を重ねた結果、平成16年4月1日より、重度障害者市民自立生活支援棟「わんすてっぷ」をその実施場所とし、福祉会独自の知的障害者デイサービスを設置・運営することとなった。

このことは、平成6年の事業開始から10年間にわたり、利用者、家族と共に築き上げてきた信頼関係と、実践活動をとおして培われたデイサービスに係る様々なノウハウを、福祉会の「財産」として継承させることとなるのだが、その一方で、この事業は市補助金に依存せず、支援費収入のみで実施することが前提としてあるため、財政的にはきわめて厳しく、更なる経営努力と職員間の合意形成、組織としての総合力を発揮することが必要不可欠であることはいうまでもない。我々は今後とも利用者、家族の「笑顔」を願うが故、敢えて「茨の道」を選択したこの原点を決して忘れてはならない。

### イ．本人支援プログラムの深化

授産施設と同様、デイサービスセンターにおいても、利用者の地域生活を念頭に置いた本人支援プログラムの深化をめざした1年であった。

一点目は、福祉的就労を希望された利用者の市内作業所への移行プログラムを実施したことが挙げられる。その結果、2名の利用者が市内作業所へ移行され、ご本人のニーズが達成された。進路支援は、一般的なデイサービス事業の支援機能ではないが、本件はご本人の意向に寄り添った結果であり、デイサービス事業にも現実的には「進路支援」機能が

存在することを実感した。

2点目は、昨年度から継続実施しているガイドヘルパーの活用・コーディネートについてであるが、本人支援プログラムに基づき積極的に取り入れ、利用者の地域生活の質的向上に繋がった。

#### ウ．支援の輪の拡大

精神障害を併せ持つ利用者への支援に関しては、今年度より新たに箕面市の精神障害者相談員による相談、助言指導を取り入れ、支援の輪へ参画していただいたことは大きな成果であった。協働の支援者として、専門的見知からの助言・指導が得られ、利用者・家族の安心につながったことはもとより、職員にとっても「後ろ盾」として心強い大きな支えとなった。今後も協働の支援者として関係が継続できるよう関係機関との連携を強化させていきたい。

### ．主な活動内容

ア．創作活動

イ．音楽プログラム

ウ．所外活動

エ．健康活動

\* 作業療法士による機能訓練及び作業療法

\* 精神障害者相談員による定期訪問及び相談指導（利用者の申請に基づく）

\* 健康診断

\* スポーツ活動（稲スポーツセンターにて）、水治訓練

カ．社会適応活動

キ．施設間交流

あかつき・ワークセンター・わんすてっぷデイ、東部老人デイ、稲老人デイ

### ．箕面市立知的障害者デイサービスセンター利用実績総括表

項 目	平成15年度	平成14年度	対前年度比
利用契約者数 (利用登録者数)	18名	17名	105.9%
平均年齢	42.0歳	40.4歳	104.0%
稼働日数	242日	245日	98.8%
延べ利用者数	2,307.5名	1,899.0名	121.5%
1日平均利用者数	9.5名	7.8名	123.0%
平均利用率	84.8%	46.7%	181.6%

注1) 平成16年3月29日～31日の間は、休業

注2) 端数処理は、小数点以下第二位を四捨五入



## 地域生活支援事業

### ・障害者ショートステイ事業（児童・知的・身障）

平成15年度の障害者ショートステイ事業は、利用総数延べ1,972名と、対前年度比82.1%となり、平成8年の事業開始以来、初めて前年度を大幅に下回った。その最大の事由は、支援費制度導入に伴う日中利用の定員設定によるものである。（日中定員6名、宿泊定員4名は従来通り）。この点に関し、家族等介護者からの不満の声は多かったものの、定員設定により学齢期の障害のある児童の夏期・冬期等の長期休暇中の繁忙状況は一定改善されたことは、結果論ではあるが本人支援の理念に合致することとなった。しかしながら、1日平均利用人数は、5.3名として依然として高く、土日・祝祭日および学校等の長期休暇中を含め、本事業に対するニーズ自体が決して減少しているわけではない。

また、今年度の特色として、宿泊利用者が対前年度比129.4%と増加したことが挙げられるが、これは介護者の緊急入院等による長期利用が複数あったことによるものであり、利用者、家族のおかれている日常的な危機的状況を端的に表す数字といえる。

利用理由については、私的理由（仕事・外出等）による利用が約60.9%、内、レスパイト（親の介護疲れ）による利用が12.1%、社会的理由（通院・冠婚葬祭・公的行事への参加等）による利用が約39.1%となり、前年度と比較しても大きな変化は見られない。

今後の課題としては、法人理念である本人支援、即ち本人ニーズに「寄り添う」といった理念上の課題点を含め、ショートステイ事業に依存、一極集中した状況を緩和するため、対案としての障害者居宅介護等事業（ヘルパー派遣事業）の拡充等、他の社会資源の拡充、創出をめざしたい。

ア．障害者ショートステイ利用状況総括表（稼働日数＝366日）

項 目	延べ利用人数	月平均利用者数
<b>ショートステイ利用者 総数</b>	<b>1,972名</b>	<b>164.3名</b>
内訳 知的障害者（ライブラ）	954名	79.5名
身体障害者（ライブラ）	64名	5.3名
児童（ライブラ）	907名	75.6名
知的障害者（わんすてっぷ）	47名	3.9名
身体障害者（わんすてっぷ）	-	-
平成14年度	2,402名	200.2名
<b>対前年度比率</b>	<b>82.1%</b>	

注1) 端数処理は、小数点第二位以下を四捨五入

イ．宿泊利用者・日帰利用者の比率

利用種別	利用人数	全体比率
宿泊利用者	804名	40.8%
日帰利用者	1,168名	59.2%

注1) 端数処理は、小数点第二位以下を四捨五入

ウ．1日平均利用者数

平成15年度		平成14年度	対前年度比率	
<b>5.4名</b>		6.5名	<b>83.1%</b>	
内	宿泊利用	2.2名	1.7名	<b>129.4%</b>
訳	日帰利用	3.2名	4.9名	<b>65.3%</b>

注) 端数処理は、小数点第2位以下を四捨五入

### ・知的障害者地域生活援助事業（グル - プホ - ム運営事業）

今年度は、支援費制度の導入に伴い、重い障害のある入居者の方が安心して当福祉会のグループホームを利用していただけるよう、新規事業として今年度から当福祉会が実施した障害者居宅介護等事業によるホームヘルパー及びガイドヘルパーを派遣し、安心・安定かつ効率的なグループホーム経営をめざした。

障害者居宅介護等事業の課題としては、事業開始初年度でもあり、ヘルパーの確保・養成といった課題があるものの、重い障害のある入居者への支援サービスは、確実に向上したものとする。

また、開設5年を迎えた第4つなりの家においては、時代の趨勢と入居者ニーズに基づく個室化を主目的に転居を行ったが、その際に費用等に関する事前説明の不足や時期的にも無理があったため、利用者・家族に対し、不要な不安と混乱を生じさせる結果となっていたが、この教訓を今後の転居に活かすべく、新たに転居に関する指針を策定した。今後はこの指針に基づく十分な事前説明と合意形成による転居を進めていきたい。

また、次年度においては、これまでご家族のご協力のもと実施されていた週末の帰宅送迎に関し、負担軽減とサービス向上をめざした送迎サービスを実施すると共に、安定した365日経営をめざし、さらなる効率化と調査研究に努めたい。

#### ア．グループホーム入居者利用状況総括表

項目	療育手帳			身体障害者障手帳			支援費区分	
	A	B1	B2	1級	2級	3級以下	区分1	区分2
女性(16名)	10名	5名	1名	2名	1名	3名	13名	3名
男性(20名)	17名	3名	-	5名	1名	4名	16名	4名
全体(36名)	27名	8名	1名	7名	2名	7名	29名	7名

#### イ．利用日数

項目	平均年齢	運営日数	平均利用日数	最低利用日数	最高利用日数
女性(16名)	32.1歳	366日	236.8日	151日	366日
男性(20名)	34.1歳	366日	218.1日	131日	366日
全体(36名)	33.1歳	366日	226.4日	-	-

注) 端数処理は、小数点以下第2位を四捨五入

#### ウ．利用率

項目	平均	最低	最高
女性(16名)	64.8%	41.3%	100%
男性(20名)	59.6%	35.8%	100%
全体(36名)	61.9%	35.8%	100%

注) 端数処理は、小数点以下第2位を四捨五入

#### ．箕面市在宅障害者自活訓練事業

平成15年度は昨年度に引き続き、「重度障害者市民自立生活支援棟わんすてっば」において、箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業と実施場所を併用しつつ、個別支援計画に基づき、半期毎に計画・実施・検証を行いながら実施した。

また、今年度における新しい試みとしては、連泊経験がある一部の登録者を対象に、集中宿泊訓練を行い将来を展望する機会を提供した。

支援体制については、昨年度同様とし、記録については、支援の深化と次年度事業への反映を目指した記録作成について検討した。

しかし、本事業への期待感からか、登録者が予想以上に増加し、実施にあたっては障害状況に配慮した支援体制をとったことで、一人ひとりの利用日数を十分に確保することが出来ず、訓練効果についても十分と言える状況ではなかった。

引き続き、このまま全登録者を対象に実施するならば、効果的なプログラムを提供することが困難であるため、委託先である箕面市との協議のもと、新規に訓練期間・利用定員を設定した訓練実施要綱を定め、あたりに登録者のニーズ・習熟度に応じた効果的な訓練実施をめざしたい。

**\*箕面市在宅障害者自活訓練事業 実施状況総括表**

項 目		平成15年度	平成14年度	増 減	対前年度比
登録者数		52名	47名	5名	110.6%
参加者数(実数)		42名	36名	6名	116.7%
稼働 日数	宿泊	127日	133日	6日	95.5%
	トワイライト	31日	37日	6日	83.8%
延べ 実施人数	宿泊	287名	336名	49名	85.4%
	トワイライト	34名	37名	3名	91.9%

**・箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業**

本事業も前述の自活訓練同様、「重度障害者市民自立生活支援棟わんすてっぷ」において、個別支援計画に基づき、半期毎に計画・実施・検証を行いながら実施した。

また、集中宿泊訓練についても自活訓練同様新しい試みとして実施した。

支援体制に関しては、前年同様としたが、障害の重度化 固定の登録ヘルパーを確保することの困難性 登録者増による利用回数の減 等による課題がクローズアップした年であり、コーディネーターの役割の重要性を実感する1年でもあった。

今後の実施については、生活訓練も自活訓練同様、委託先である箕面市と協議のもと、次年度より、新規に訓練期間・利用定員を設定した訓練実施要綱を定め、あたりに登録者のニーズ・習熟度に応じた効果的な訓練実施をめざしたい。

**\*箕面市重度身体障害者社会生活訓練事業 実施状況総括表**

項 目		平成15年度	平成14年度	増 減	対前年度比
登録者数		22名	19名	3名	115.8%
参加者数(実数)		23名	22名	1名	104.5%
稼働 日数	宿泊	100日	96日	4日	104.2%
	トワイライト	14日	17日	3日	82.4%
延べ 実施人数	宿泊	142名	172名	30名	82.6%
	トワイライト	14名	17名	3名	82.4%

**・障害児(者)地域療育等支援事業(児童・知的)**

本事業は、障害者市民及びその家族が、住み慣れた地域の中で、安心して暮らし続けるために、身近に相談できる窓口として、当事者及び家族が抱える課題に対して、何らかの解決策を関係諸機関と連携を図りながら見出していくことを目的に実施する事業である。しかしながら、国の財政状況の悪化等の影響を受け、平成14年度より各受託事業所の実績に応じた予算の枠配分に始まり、15年度は国の当該事業に対する予算の一般財源化方針を

受けて、大阪府単独事業となった。事業の先行き自体が不透明ではあるが、幸いにも16年度は現状維持の枠配分予算で事業を継続することができた。

その中の特筆すべき事例として、介護者の緊急入院によるショートステイの利用相談から浮かび上がった、当福祉会も市障害福祉課も把握していなかった在宅のケースが挙げられる。現在18歳になるご本人は、小学校5年生の時のいじめを契機に引きこもり状態となり、障害福祉関係機関からはノーマークのまま、今回相談するまでの7年間、在宅生活を余儀なくされていた。初回訪問時には号泣され、決してご自宅の玄関から出ようされなかったご本人は、本事業を核とした横断的連携・関係機関との協力体制により、ショートステイの利用調整やデイサービスの段階的利用、健康増進課の無料出張健康診断等を積極的に活用され、見る見るたくましく変わっていかれた。現在、笑顔で通所授産施設を利用され、7年間の在宅生活から失った時間を取り戻そうと精一杯生きるご本人の姿から、本事業の重要性とまだ見ぬ在宅障害者の存在を改めて認識させられた。

今後とも今回のケースを決して忘れず、本人、家族が地域社会の中で孤立することなく、当たり前生活を営めるよう、関係機関との連携、横断的支援ネットワークの構築と実効性のある相談・支援活動に努めたい。

**\*障害児(者)地域療育等支援事業 登録者数** 平成16年3月31日現在

項目	平成15年度	平成14年度	増減	対前年度比
合計	105名	105名	0	100%

**\*障害児(者)地域療育等支援事業実施件数** 平成16年3月31日現在

項目	平成15年度	平成14年度	増減	対前年度比
外来療育等指導事業	3件	2件	1件	150.0%
訪問療育等指導事業	35件	42件	7件	83.3%
施設一般指導事業	30件	23件	7件	130.4%
地域生活支援事業	272件	289件	17件	94.1%
合計	340件	356件	16件	95.5%

注) 端数処理は、小数点以下第2位を四捨五入

**・障害者居宅介護等事業(知的・身障)**

本事業は、今年度からの新規事業であり、専任のサービス提供責任者を地域生活支援課内ヘルパーステーション「ウイズ」に配置し、支援費制度上の知的障害者居宅介護等事業と身体障害者居宅介護等事業の2事業を一体的に行うものである。また、本事業実施に至る背景は、重い障害のあるグループホーム入居者の安心、安定した生活支援を行うシステムを模索する過程で検討されたものであり、事業開始初年度に鑑み、グループホーム入居者を中心にサービスの需給調整を行った。

今年度の利用契約者数は35名であり、延べ派遣件数は2,400件、延べ派遣時間は、3,159.5時間であった。月平均利用者数は18.3名で、その内の75%がグループホーム入居者であった。

主な実施内容は、入浴及び食事介助であり、重度重複障害者市民対応のグループホームの「第9つながりの家」においては、常時1名のヘルパーを身体介護として派遣としている。これらのヘルパー派遣は、重い障害のある入居者の生活を支える上では極めて有効であり、安心、安定したグループホーム経営に寄与できたものとする。

一方、ガイドヘルプに関しては、グループホームからご自宅への帰宅支援、余暇支援や

一部ではあるが施設利用者等への移動介護を実施した。

本事業は、国の予算不足で昨年話題になった地域生活支援における支援費制度上のいわば「目玉」的な事業でもあり、当福祉会の将来を左右する重要な基幹事業として発展させていきたい。また、当然のこととして、グループホーム入居者以外からのニーズが極めて高いことも十分認識しているが、新規事業ということもあり、課題が山積していることもまた事実である。

今後に向けては、ヘルパーの安定的確保をめざした独自の2級ホームヘルパー養成講座開催に向けた調査研究や個別余暇支援事業「ざ・ほりです」の発展的解消による本事業への段階的移行、グループホームの送迎サービス実施、集中するショートステイニーズへの代案等、課題が山積している。しかし、決してあせることなく、着実かつ確実に「前」へ歩み出していきたい。

**\* 障害者居宅介護等事業 派遣状況総括表**

利用契約者数	延べ派遣件数	延べ派遣時間数
35名	2,400件	3,159.5時間

**\* 障害者居宅介護等事業 派遣状況内訳表**

項目	家事援助	身体介護	移動介護	移動介護(身)	合計
早朝	0時間	1,290.5時間	7時間	0時間	1,297.5時間
夜間	(0件)	(1094件)	(5件)	(0件)	(1,099件)
日中	52.5時間	988時間	572時間	249時間	1,861.5時間
	(24件)	(951件)	(207件)	(119件)	(1,301件)
深夜	0時間	0時間	0時間	0時間	0時間
	(0件)	(0件)	(0件)	(0件)	(0件)
合計	52.5時間	2,278.5時間	579時間	249時間	3,159時間
	(24件)	(2,045件)	(212件)	(119件)	(2,400)

## 個別余暇支援事業「ざ・ほりでーず」

平成6年度より本事業が発足して以来、一貫して「一人ひとりのニーズに寄り添った余暇支援」に重点をおき、今年度は延べ参加者数115名、延べ支援時間数301時間の個別余暇支援を行った。利用者数及び支援時間数に関しては、支援費制度導入に伴う繁忙等により若干減少したが、ここ数年大きな変動はなく、本事業が定着したとも解釈できる。しかしながら、別の見方をすれば、新たなニーズの掘り起こしと支援者の確保・拡大が不十分であるとも言える。

そこで、潜在的ニーズも含め、より多くのニーズに応えていくためには、支援者の確保・拡大とスキルアップが求められるため、今年度も「障害者市民活動サポーター養成講座」を開催し(2月、参加者延べ16名)、専門研修として「脳性まひについて」の基礎講座も新たに実施した。

また、支援費制度の導入と前項で述べた「障害者居宅介護等事業」の新規実施により、法人自主事業として本事業は、一定その使命を終えたものとする。次年度以降は、経営的側面を含め、本事業は障害者居宅介護等事業へ発展的解消と段階的に移行させることとし、事業としてのより一層の安定と支援サービスの向上を図りたい。

### \* 個別余暇支援事業「ざ・ほりでーず」実施状況

項目	平成15年度	平成14年度	増減	前年度対比
延べ申込人数	212名	236名	24名	89.8%
延べ参加者数	115名	131名	16名	87.8%
支援率	54.2%	55.5%	1%	97.7%
延べ支援者数	96名	114名	18名	84.2%
延べ支援時間数	301時間	268時間	33時間	112.3%
月平均参加者数	9.6名	10.9名	1.3名	88.1%
月平均支援者数	8.0名	9.5名	1.5名	84.2%

注)小数点第2位以下四捨五入

### \* 主な活動内容

屋外活動・ハイキング : 宝塚ガーデンヒルズ、箕面の滝、万博記念公園、エキスポランド、高槻フィールドアスレチック、中山寺、プール(鶴見緑地)、大阪空港、和歌山山駅周辺(電車&ラーメンの旅)、海遊館、福井県音海漁港(釣り)、ユニバーサルスタジオジャパン、大阪南港ATC

スポーツ活動 : ポーリング(箕面スパーガーデン)、Jリーグサッカー観戦(万博記念競技場)

観劇・映画・買い物 : 映画(箕面ヴィソラ)、大阪交通博物館、ワッハ上方、神戸南京町、らいとびあ21、あいあいプラザ、豊中障害福祉センター「ひまわり」、伊丹ダイヤモンドシティ

その他 : 温泉(万博おゆば、スパワールド)

## 職員研修実施状況

今年度の職員研修は、延べ実施件数116件(対前年度比86.6%)、延べ参加人数630名(対前年度比80.9%)と、前年度に比べ大幅に減少した。これは支援費制度への対応による職員の繁忙と支援サービス低下を招かぬよう現場での実践に精力を傾けた結果である。従って、20%程度の減少はミニマムであり、許容範囲内であると考えられる。また、西宮市社会福祉協議会「青葉園」との共同研究である「本人支援プログラム研究会」も継続して研究を重ね、今年度は職員による内部研修から一歩踏み込み、利用者・家族をはじめ、他地域の関係施設や市関係部局へも呼びかけを行い、研究成果の集大成として後述するシンポジウムを開催するに至った。

また、新たな試みとして、新規採用正規職員3名を従来のように4月1日付で固定配属するのではなく、あかつき園、ワークセンター、地域生活支援課の3部局にそれぞれ2ヶ月毎にローテーションで研修させ、最終配属先はこの6ヶ月間の研修結果を踏まえた上で決定した。従来、新人職員は配置直後から現場で単独勤務させていたのだが、これを改め、原則的にチームリーダーまたは所属管理職の所管下で徹底したOJTを実施した。この効果は絶大であり、法人理念の周知徹底と基本的支援姿勢等の支援スキル修得に関しては、従来にない成果を実感できた。課題点は、やはりチームリーダー、管理職の指導能力・スキルにあり、当福祉会にとって人材育成が重要かつ継続的な課題であることに変わりはない。

次年度については、階層別職員研修をより充実したものにし、今年度は実施できなかった研修参加カルテを作成し、より効果的な職員研修を実施し、その成果が利用者サービスの向上につながるよう努めたい。

### \*部局別職員参加状況

項目	平成15年度	平成14年度	増減	対前年度比
法人本部	46名(22件)	57名(28件)	11名	81.0%
箕面市立あかつき園	246名(36件)	345名(41件)	99名	71.3%
箕面市立ワークセンターささゆり	213名(36件)	235名(35件)	22名	90.6%
地域生活支援課	125名(22件)	142名(30件)	17名	88.0%
合計	630名(116件)	779名(134件)	149名	80.9%

注) 端数処理は、小数点以下第2位を四捨五入

### \*主な参加研修(自主研修、本人支援プログラム研究会を除く)

#### 法人本部

新社会福祉法人会計簿記講座(中級)、人事管理セミナー、社会福祉法人・施設等指導監査説明会、支援費説明会、「パオみのお」移転問題に関する学習会、ハートフルみのお、ノーマライゼーション・フォーラムin西宮、経営研修、接遇研修、貯水槽水道管理者説明会、他

#### 箕面市立あかつき園

てんかん基礎講座、自閉症理解のための連続講座、福祉施設におけるサービスの質の確保とリスクマネジメント、社会福祉施設長サービス管理研修会(障害児者施設長コース)、社会福祉施設職員研修会(障害児者施設課程応用コース)、感染症予防研修、池田保健所管内集団給食研究会、成人・セルフ部会栄養士・調理員研修会、他

#### 箕面市立ワークセンターささゆり

てんかん基礎講座、脳性まひ多職種講習会、福祉と人権シンポジウム(支援費制度の実施状況と残された課題)、「パオみのお」移転問題に関する学習会、腰痛予防対策セミナー、障害者のための起業家チャレンジ講座、サービスマナーセミナー、経営研修、新任職員研修、他

#### 地域生活支援課

自閉症理解のための連続講座、短期入所事業研究会、「パオみのお」移転問題に関する学習会、(財)箕面市障害者事業団 障害者問題連続講座、地域福祉実践セミナー、障害者ケアマネジメント従事者養成研修、精神保健ボランティア講座、居宅介護計画作成等研修会、アメニティーフォーラムinしが、経営研修、新任職員研修、他

## 視察・実習等受け入れ状況、講師派遣、等

### ・視察・実習等受け入れ状況

今年度の視察・実習生等受け入れ状況は、延べ39件、436名の視察・実習生等を受け入れたが、研修実施状況と同じく、残念ではあるが前年度に比べ大幅減となってしまった。次年度以降は、法人責務として視察者・実習生を積極的に受入社会貢献・地域啓発に務めたい。

### \* 部局別視察・実習生等受け入れ状況

項目	平成15年度	平成14年度	増減	対前年度比
箕面市立あかつき園	184名(13件)	331名(30件)	147名	55.6%
箕面市立ワークセンターささゆり	224名(24件)	136名(23件)	88名	164.7%
地域生活支援課	28名(3件)	145名(25件)	117名	19.3%
<b>合計</b>	<b>436名(39件)</b>	<b>612名(78件)</b>	<b>176名</b>	<b>71.2%</b>

注) あかつき園・ワーク・地域生活支援課で重複している視察・実習は、あかつき園で計上

### \* 主な視察・実習等受け入れ先

#### 視察

砂子療育園(理学療法士)、大阪府立豊中養護学校、大阪府立箕面養護学校、兵庫県立川西養護学校、箕面市議会議員、大阪大学国際医療研究会、他

#### 実習・見学

大阪府立箕面養護学校・豊中養護学校、箕面市立西南小学校・南小学校、箕面市立第三中学校、イキイキさわやかに学ぶ会、社会福祉法人池田芽ばえ福祉会、社会福祉法人向綾会、藍野医療福祉専門学校、聖母被昇天学院女子短期大学、他

### ・シンポジウム、研修会開催状況(2件)

平成16年 2月 7日 参加者数 151名	<b>重度障害者市民の地域生活を考えるシンポジウム</b> 第1部実践報告 本人支援プログラムをとおしてみえてきたもの 報告者 あかつき園 末廣、ワークセンターささゆり 佐々木 青葉園における個人総合計画作りの展開 報告者(社福)西宮市者社会福祉協議会 青葉園主任 岩宮冬樹 氏 第2部基調講演 「重度障害者市民の地域生活新世紀」 講師:(社福)西宮市者社会福祉協議会 のまネット西宮 センター長 清水明彦 氏 第3部シンポジウム コーディネーター 清水 明彦 氏 シンポジスト 今井 雅子 氏(当事者代表) シンポジスト 藤野美代子 氏(行政代表) シンポジスト 亀谷 雅彦 (当福祉会代表)
平成16年2月28日 参加者数 16名	<b>障害者市民活動サポーター養成研修</b> 学課:「脳性麻痺について」



## ・講師派遣（9件）

講師派遣に関しては、昨年度の4件から9件と倍以上に増加しており、また地域生活支援に関する講演依頼が多かったことは、時代を端的に表しているものとする。

### \* 講師派遣状況

日 時	件 名	依頼団体等	講 師
平成15年 7月 5日	NPO法人 てくてく設立記念 ジョイント講演会	NPO法人 てくてく (長岡京)	地域生活支援課長 地域生活支援課職員3名
平成15年 7月 9日	「働く」って なんだろう	箕面市立第四中学校	地域生活支援課長 ワークセンターささゆり職員3名
平成15年 7月17 日	定例 話し合う会	箕面市肢体不自由児 (者)父母の会	ワークセンター所長 地域生活支援課長
平成15年 8月 7日	箕面育成園 ボランティア講座	大阪府知的障害者育成会 箕面育成園	あかつき園職員1名
平成15年 9月10 日 10月 2日 10月22日	グループホーム説明会	つばさの会 (箕面市)	地域生活支援課長補 佐 グループホーム担当者等3名
平成15年 9月12 日	2級ヘルパー講習会 障害者福祉の制度とサービス	アルファコープおおさか	ワークセンターささゆり 所長
平成15年 9月16 日	グループホーム検討部 会	箕面市肢体不自由児 (者)父母の会	地域生活支援課長補 佐
平成15年11月30日	近畿ブロック 指導者養成研修	(社団)全国肢体不 自由児・者父母の会 連合会奈良県支部	地域生活支援課長 地域生活支援課長補 佐
平成16年3月9日	「みんな話そう! 支 援費制度」	箕面市教育委員会 子ども課	デイサービスセンター所 長

## ・ボランティア参加状況

施 設 名	参加人数	活 動 内 容 等
あかつき園	22名	日中活動(外出、手漉きはがき作成、他) 作業ボランティア(製袋作業、他)
ワークセンターささ ゆり	277名	プール活動、作業療法、音楽療法、音楽活動(コンサート)、 創作活動、行事活動(外出等)
知的デイサービスセ ンター	62名	作業ボランティア(さをり織り、等)、行事活動(外 出、等)、環境整備(技能を活かした棚、机・イスの制作)
合 計	361名	

## 福祉サービス向上委員会

平成15年度は、支援費制度と共に、利用者への支援サービスのあり方が厳しく問われ、サービスの質により選ばれる時代のスタートの年であった。当法人も、昨年度に引き続き、利用者を選んでいただけるサービス提供を目指し、4つのサービス向上委員会が活動を継続した。

中でも、CI推進部会は、法人の顔としての要覧・ホームページ・機関誌作りに向け調査研究を行った。要覧は完成を見たが、次年度の事業展開をにらんで、業者発注は見合わせた。また、ホームページは、次年度上半期に立ち上げられるよう準備を進めているところである。

併せて、特筆すべき成果としては、ボランティア活動推進部会においてサポーター養成講座に専門研修を導入したことである。これまでと違って、サポーターの質的向上に一歩踏み込んだ試みと言える。また、マニュアル化推進部会・給食サービス向上委員会において

### \* 各部会の開催状況詳細

部 会 名	開催回数	実 施 内 容	成 果
CI推進部会 (ホームページ・ 機関誌作成部会)	全7回	要覧・ホームページ・機関誌の 検討(調査研究他)	要覧作成 ホームページ・機関 誌作成に向けた調査 研究
ボランティア 活動推進部会	全8回	ボランティア養成に向けた調査 研究	サポーター養成講座 の実施・ボランティ アガイドマップ作成
マニュアル化 推進部会	全3回	施設サービス向上に向けたマニ ュアルの整備	戸締まり点検マニ ュアルの作成、他8マ ニュアルの検討
給食サービス 向上委員会	全3回	「美味しく・楽しく・健康に食 べる」の研究	栄養指導に向けた 課題設定・グルーホ ーム指導の方針化

支援費制度を円滑に導入するにあたり、昨年度よりサービス向上委員会活動が低調であったことは、他の事業と同じく否めない。しかしながら、利用者への支援サービス向上をめざし、職員が主体的に委員会を運営・進行管理する中で、中堅職員の質的向上についても、少しずつであるが確実な前進を実感できた。

今後も、当福祉会の理念「本人支援」と職員の「自主性・主体性」をキーワードに、障害者福祉サービス向上への取り組みを継続しながら、人に優しいまち作り、豊かな地域コミュニティ創出に貢献していきたい。

## 社会福祉法人あかつき福祉会 役員名簿

### . 理事

平成16年3月31日現在

役職名	氏名	選出団体	役職名等	区分
理事長	岩崎 幸夫	箕面学園福祉保育専門学校	非常勤講師	学識経験者
副理事長	西本 征子	箕面手をつなぐ親の会	会長	社会福祉団体
常務理事	熊井 稔	あかつき福祉会	総務課長	施設長
理事	辰己 雅彦	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	学識経験者
理事	奥村 隆一	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	学識経験者
理事	神内 紘典	箕面ロータリークラブ	元会長	学識経験者
理事	印藤 政治	箕面市身体障害者福祉会	副会長	社会福祉団体
理事	松尾 ひろ子	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	社会福祉団体
理事	野津 禮子	社会福祉法人 暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	社会福祉施設
理事	和田 久實	社会福祉法人 翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	施設長	社会福祉施設
理事	太田 克己	箕面市健康福祉部	総合保健福祉センター 次長	行政関係

### . 監事

平成16年3月31日現在

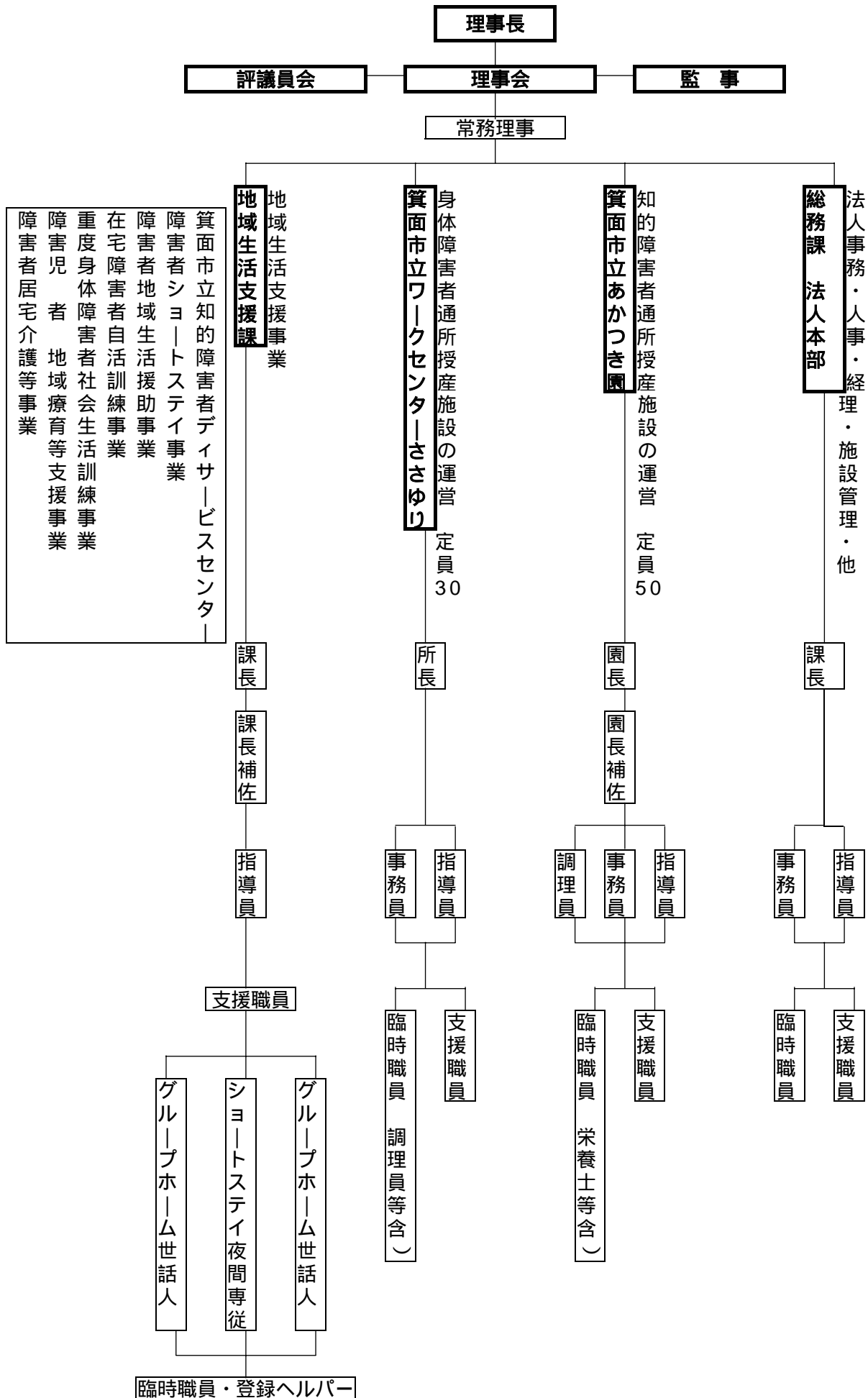
監事	田中 輝夫	元 あかつき福祉会 評議員	(社福)箕面市社会福祉協議会 萱野小地区福祉会 副会長	学識経験者
監事	吉田 直彦	箕面市出納室	室長	行政関係

## 社会福祉法人あかつき福社会 評議員名簿

平成16年3月31日現在

氏名	出身団体	役職名等	区分
毛利 正幸	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	副会長	福祉団体
森 幸男	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	西南小地区福社会会長	福祉団体
石田 彦嗣	箕面市民生委員児童委員協議会	西南小地区	福祉団体
吉田 照夫	財団法人箕面市障害者事業団	事務局長	福祉団体
濱口 忠	箕面市身体障害者福社会	会長	福祉団体
橋口 さよ子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	福祉団体
伊藤 久仁子	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	福祉団体
植田 恵美子	箕面市精神障害者家族会みのお会	地域生活支援センター 施設長	福祉団体
川端 健高	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団	総務課長	福祉施設
小山 隆	同志社大学	教授	学識経験者
中井 満州男	箕面ロータリークラブ	(有)中満商事 <sup>テ</sup> ック書店 代表取締役	学識経験者
泉 道彦	元 あかつき福社会 理事	元あかつき園園長	学識経験者
西田 俊次	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
立見 五十七	箕面商工会議所	常議員	学識経験者
瀧 洋二郎	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
奥村 慶治	元 箕面市職員	保護司	学識経験者
清水 朝一	元 あかつき福社会 常務理事	保護司	学識経験者
木本 瑞枝	大阪府池田保健所箕面支所	主査	行政関係
森本 裕行	大阪府池田子ども家庭センター（健全育成課）	主査	行政関係
伊東 昭巳	大阪府立箕面養護学校	教諭	行政関係
辻 広志	箕面市人権文化部（人権推進課）	課長	行政関係
吉田 功	箕面市教育委員会教育推進部 （学校教育課）	主査	行政関係
藤野 美代子	箕面市健康福祉部（障害福祉課）	課長	行政関係

平成15(2003)年度 社会福祉法人あかつき福祉会 組織図



## 平成15(2003)年度社会福祉法人あかつき福祉会 職員内訳

\* 職員内訳詳細

平成16年3月31日

現在

部 局 名	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	3名	1名	1名	5名
箕面市立あかつき園	7名	7名	11名	25名
箕面市立ワークセンターささゆり	5名	6名	13名	24名
箕面市立知的障害者デイサービスセンター	2名	1名	2名	5名
地域生活支援課	4名	13名	7名	24名
合 計	21名	28名	34名	83名

注1) 正規職員数には、箕面市出向者1名を含む

注2) 支援職員数内訳(28名、障害者職員2名を含む)

法人本部1名、あかつき7名、ワーク6名、デイサービス1名

地域生活支援課13名(グループホーム8名、ショート4名、居宅1名)

注3) 臨時職員数には、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注4) その他、登録ヘルパー 46名